

子どもたちに未来を思い描ける想像力を



🌿 ジョグراف前国連生物多様性条約事務局長を囲んでの
トークショー (2011年12月)



🌿 国内でのグリーンウェイブ活動(植林)



「グリーンウェイブ」をはじめとした生物多様性の体験学習を通し、子どもたちが自然の恵みとともに暮らすを楽しみ、感謝できる大人に育ってくれることを期待しています、と語る実行委員長の川延昌弘さん。



「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会

🌿 森をささえよう

私たちの「生物多様性と子どもの森」キャンペーンは、グリーンウェイブなどの活動を通して、子どもたちが自然の恵みとともに暮らすに感謝しながら、その営みを楽しんでいってほしいという活動。子どもを中心として森林とふれあうことを目標とし、全国で青少年を対象に森林づくりに取り組ん

できた多くの団体の方が一緒に取り組む初のプラットフォームです。グリーンウェイブを核として、数多くの団体がネットワークすることにより、ひとつの団体では届かないことを実現していきたいと考えています。

具体的には、次の4つの活動を通して、子どもたちの生物多様性保全活動の活性化と定着を目指しています。ひとつめは「グリーンウェイブ」を始めとした、子どもたちの生物多様性保全活動への参画推進です。同時に、子どもたちが自然の恵みに支えられた暮らしに感謝する心を育み、災害に強く持続可能な営みや、国・地域を超えた子どもたちが共に支え合い生きていく「つながり」を学べる仕組みづくりも行っています。

🌿 森と暮らそう

「グリーンウェイブ」は、国連が定めた「国際生物多様性の日」である5月22日に、世界各地の青少年たちがそれぞれの学校や地域において植樹などの活動を行うことを通じて、彼らに生物多様性のことを学んでもらおうとする国際的なキャンペーンです。時差によって彼らの行動が地球の東から西の方へ伝わっていく様子が波(ウェイブ)のようであることから、このように名付けられました。

「木を植え、育てる」ことを通して、私たちの暮らしが自然からの恵みに支えられていることを理解し、こうした恵みに感謝する心を子どもたちに育んでもらいたいという思いから、「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会は「国連生物多様性の10年」のスタートとなった平成23年1月に設立されました。

「グリーンウェイブ」をはじめ、子どもたちが行う生物多様性保全活動の活性化と定着に取り組む国内外の団体を結ぶネットワークの中核として、教材の作成やキャンペーンの運営等を行っています。

今回は、実行委員長の川延昌弘さんにお話をうかがいました。



「グリーンウェイブ2012」キックオフ・フォーラム

フォレスト・サポーターズ 4つのアクション 活動紹介

体験学習教材「森のめぐみ」
—グリーンウェイブ—



生物多様性の概念(3つのレベルの多様性、4つの生態系サービス)について参加体験型で学びを深めていけるように作成された子ども向け教材です。各団体に配布されているほか、「生物多様性と子どもの森」キャンペーンのホームページからダウンロードすることもできます。



教材を使用して遺伝子の多様性を学ぶ子どもたち

今日からやろう！森のための 4つのアクション

森にふれよう

木をつかおう

生物多様性基本法の前文には、「人類は生物の多様性のもたらす恵沢を享受することにより生存しており、生物の多様性は人類の存続の基盤となっている。また、生物の多様性は、地域における固有の財産として地域独自の文化の多様性も支えている」とあります。つまり、生物多様性とは単に生物や自然の保全にとどまらず、私たちの社会や経済、文化、ひいては自然と共生してきた日本人の精神の基盤となっており、私たちの暮らしに直結している幅広い

最後は、様々な地域・団体をつなぐネットワークの形成です。生物多様性保全活動の活性化と定着のために、青少年団体、学校関係団体、指導者団体、NGO、地域団体、企業など、様々なセクターをつないだネットワークづくりを行っています。

植樹・育樹活動を通して、生物多様性と暮らしのつながりに気づき、学びを深めていくことができる教材を提供しています。三つめは、グッドプラクティス(模範的な取組事例)の情報共有・シンポジウムの開催。国内外の子どもたちが理想とする未来の森づくりイメージや生物多様性保全活動のグッドプラクティスを広く集め、国内外の多くの人々と共有・共感することを目的としたシンポジウムの開催や情報発信を行っています。



フォレストサポーターズのメンバーであるスヌーピーが2013年はグリーンウェイブも応援します。「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会で、普及啓発用として子ども向けシールを作成予定です。

ものではないかと思えます。国際条約でうたわれている内容は、実は私たちの日々の暮らしの積み重ねで実現しているもの——グローバルで言われている難しそうなことは、基本的には地域の取り組みが全て説明している——そう考えると、それぞれの地域におけるテーマや方向性、本當に目指すべきものがわかってくるのではないのでしょうか。

日本の「グリーンウェイブ」は、木を植える活動だけではなく、日本の「木のある暮らし」そのものを再認識していくこと、その暮らし方を子どもたちに話し伝えていくことも含めて活動を広げていきたいと思えます。今年には東日本大震災からの復興も本格化し、日本の将来を決める上で重要な年になると思えます。次代を担う子どもたちには、グリーンウェイブを中心とした体験学習を通して、望ましい未来を思い描ける想像力を身につけてほしいと願っています。